

2型糖尿病の病態把握における肝線維化マーカーFib4 indexを用いた検討

◎井上 裕行¹⁾、中山 奈月¹⁾、高谷 美結¹⁾、仲北 友子¹⁾、伊東 裕之¹⁾、中田 恵美子¹⁾、中村 文彦¹⁾
地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター¹⁾

【背景】非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)は糖尿病や肥満と密接に関係し、インスリン抵抗性を基盤とした生活習慣病の肝病変として注目されている疾患概念である。日本人NAFLD患者の約三分の一は非肥満患者であるといわれており、肥満の有無にかかわらず肝疾患のリスクを評価することは2型糖尿病患者において特に重要である。年齢、AST、ALT、血小板数を組み合わせて算出されるFib4 indexは、非侵襲的に肝線維化を評価できる有用なマーカーとして報告されている。今回我々は、非肥満および肥満2型糖尿病患者についてそれぞれFib4 indexを算出し、病態との関連性を検討した。

【対象および方法】本検討は、2018年7月～2020年12月の期間において2型糖尿病と診断された患者のうち、非肥満群(BMI<26) 67名、肥満群(BMI≥26) 78名を対象とした後ろ向き研究である。2群においてそれぞれFib4 indexを算出し、各種統計学的解析を行った。

【結果】Fib4 index (基準値<1.3)は、非肥満群では平均値1.4、肥満群では平均値1.3であり、2群とも肝線維化は進

行していることが明らかとなった。Fib4 indexの増加と相関を示す項目をSpearmanの順位相関係数を用いて解析したところ、BMIおよびeGFRの低下が有意な相関を示した。続いて、重回帰分析を行ったところeGFR低下がFib4 index増加との間に有意な関連性を認めた。

【考察】2群においてFib4 indexの増加が認められたことから、肥満の有無にかかわらず2型糖尿病患者において肝線維化が進行していると考えられた。この肝線維化の進行とeGFRの低下が関連している可能性が明らかとなり、2型糖尿病患者におけるFib4 indexの増加は、肝疾患のリスクのみならず糖尿病性腎症の発症とも関連性があることが示唆された。

TEL:0742-46-6001(内線 2523)